次期学習指導要領 教科別まとめ　　高校 No.05

審議まとめ（2026年10月5日）を高校の先生向けにまとめ直しました

高校版

理数

次期学習指導要領で、どう変わる？

理系だけでなく文理をこえたテーマで、全校で探究を



10秒でいうと　理数探究基礎・理数探究は現行どおり。文理横断（STEAM）の課題も充実し、全校で指導

やさしく言うと

高校の共通教科「理数」（理数探究基礎・理数探究。審議まとめでは「理数科」と表記）は、科目の枠組みと学習内容を大きく変えない方向です。今の内容は、探究に最低限必要なものと考えられているためです。そのうえで、探究のテーマを科学・数学に偏らせず、文理をこえた課題も充実することが望ましいとされています。数学・理科の先生だけでなく、全校で指導する体制が望ましいとされています。

高校はいつから？

全面実施	2032年度の入学生から（学年ごとに。2034年度に全学年）（見込み）
移行期間	2029～2031年度
告示	2027年度末の予定
教科書	2032年度から学年ごとに新しい教科書（2030年度から検定）

この冊子の中身

1 理数のポイント　4つ
2 主な変更点　7項目
3 現行と次期の比較（新旧対照）　6項目
4 授業時数
5 今からできる準備チェックリスト　8項目
6 次期を先取りする授業アイデア　2本
7 現行の学習指導要領・解説（高校）

無料 原田英語.com 次期学習指導要領ナビ

研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。クレジットは残してください。
審議まとめ（2026年10月5日）準拠・出典ページつき。告示前の方向性で、今後変わることがあります。2026年11月4日 版

サイトで見る

理数の3行要約（全校種）

1. 高校の共通教科「理数科」（理数探究基礎・理数探究）は科目名・単位数とも現行どおりとする案で、学習内容の精選も特に示されていません。
2. 目標を「数理的・科学的に探究する資質・能力」とし、対象を「事象や社会の課題」に広げ、見方・考え方に批判的思考を加える方向です。
3. 探究テーマを科学・数学に偏らせず文理横断（STEAM）の課題も充実し、数学・理科以外の先生も関わる全校の指導体制が望ましいとされました。

1 理数のポイント

4つ

1 文理をこえたテーマも

社会の事象や学際的なテーマも本来想定されていますが、現場では選ばれにくいとされています。そこで、探究の対象の例を科学・数学に偏らせず、文理横断・文理融合（STEAM）の課題も充実する方向です。数学的な事象の例の追加も検討するとしています。 P195 P196 P197

授業では、たとえば 地域の交通渋滞を、データ分析と住民へのインタビューの両方から探究する。そんなテーマ設定が、この方向に沿う一例です。

2 目標と見方・考え方の言葉

目標の「課題を解決するために必要な資質・能力」は、「数理的・科学的に探究する資質・能力」に改める案です。対象は「様々な事象」から「事象や社会の課題」に改めることが望ましいとされています。見方・考え方には、批判的思考（クリティカル・シンキング）の重要性をふまえた記載を入れる方向です。 P197

授業では、たとえば 探究の中間発表で、互いの仮説や根拠に「本当にそう言えるか」と質問し合う時間を設ける。そんな場面づくりが考えられます。

3 全校で指導する体制へ

指導を担当する先生を、数学・理科以外にも広げるべきとの指摘があります。そこで、全校で指導する体制を作ることが望ましいとされています。全ての教員が自主的・協働的に関われる仕掛けづくりが重要で、国による好事例の周知が必要とされています。 P195 P196 P198

授業では、たとえば 社会科や国語科の先生が、テーマに応じて探究グループの相談役を担当する。そんな校内の役割分担が一例として考えられます。

4 時間の確保と、問い・評価への支援

探究には十分な時間が必要です。理数探究で総合的な探究の時間に代えられる今の仕組みがあります。次期改訂の案として、単位数を細かく分けて増やしたり減らしたりできる仕組みも示されています。これらの活用が有効とされています。問いの立て方や評価は、国が先行事例や参考資料で示していくべきとされています。P196 P198

授業では、たとえば 探究の過程をポートフォリオに残し、問いの変化や試行錯誤も評価の材料にする。そんな評価の工夫が考えられます。

2 主な変更点

7項目

1. 高 探究テーマを科学・数学に偏らせず、文理横断（STEAM）の課題も

理数科の探究はもともと社会的な事象や複数の分野にまたがるテーマも想定していますが、学校ではそうした課題が選ばれにくいという指摘があります。そこで、探究の対象の例示を科学的・数学的なものに偏らせず、文理横断・文理融合（STEAM）の課題も充実させることが望ましいとされました。数学的な事象も例示に加えることを検討すべきとされています。P195 P196 P197

2. 高 数学・理科の先生だけでなく、全校で指導する体制へ

指導する教師を数学や理科の担当以外にも広げるべきだという指摘をふまえ、数学・理科担当に限らない全校での指導体制をつくることが望ましいとされました。全ての教員が自分から協力して理数探究に関われる「仕掛けづくり」が大事で、国による好事例の周知が必要だとされました。文理横断の課題を増やすことで、数学・理科以外の先生も関わりやすくなることが期待されています。P195 P196 P197 P198

3. 高 目標の言葉が変わる：「数理的・科学的に探究する資質・能力」

目標のうち「探究の過程を通して」は理数科の本質なので引き続き示すことが適当とされました。一方、「課題を解決するために必要な資質・能力」は、課題解決型ではない探究もあるため「数理的・科学的に探究する資質・能力」に改めることが適当とされました。対象も、社会とのつながりをはっきりさせるため「様々な事象」から「事象や社会の課題」に改めることが望ましいとされています。学びに向かう力には、知的好奇心や問題意識、他者と対話・協働しながら学びを調整することを加え、研究の倫理的な態度や粘り強く探究する態度は引き続き示す方向です。P197

4. 高 見方・考え方に「批判的」な考察を加え、「数理的・科学的」な視点に

社会で批判的思考（クリティカル・シンキング）の重要性が高まっていることをふまえた見方・考え方にすることが適当とされました。扱う対象は「事象や社会の課題、言説」とし、理数科ならではの視点は「数学」「理科」という教科名ではなく「数理的・科学的」と示す方向です。資料編の案では、現行の「数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる」形から、理数科として1つの見方・考え方を示す形に変わっています。P197

5. 高 探究の時間を確保する仕組みの活用

探究には十分な時間が必要なので、理数探究基礎または理数探究の履修により、総合的な探究の時間と同様の成果が期待できる場合に、その一部または全部に代えることができる今の仕組みや、単位を細かく分けて増やしたり減らしたりできる新しい仕組みを活用できることを、国が積極的に知らせるべきだとされました。入試指導への期待から探究に取り組みにくいという声に対しては、理数科の探究が大学での学びの基礎になることなどを、国が保護者や大学関係者に丁寧に説明する必要があるとされています。P196 P198

6. 高 問いの立て方・評価・ICT活用・外部連携への国の支援

教師が困っている「問い」の設定については、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の事例も含め国が参考資料を示す必要があるとされました。評価についても、探究の過程をポートフォリオなどで残すことも含め、参考資料を示す方向です。ICT（AIを含む）の効果的な使い方と豊かな学びにつながらない使い方も解説で示し、情報科との関係も説明する方向です。大学と連携しやすいよう、大学側に高校との連絡窓口を一つにまとめるなどの体制づくりを国が検討することが望ましいとされています。P196 P198

7. 高 内容は大きく削らない（「科学ガイダンス」との接続に注意）

理数科は現行の学習指導要領で新しくできた教科・科目で、今の学習内容は数理的・科学的な探究に最低限必要なものと考えられるため、精選は特に示されていません。ただし、理科で検討中の「科学ガイダンス」との内容のつながりには注意が必要とされています。開設・履修を広げるため、国が意義を周知し、開設に必要な費用には高等学校教育改革促進基金やSSH事業の活用が期待されています。 P195 P196 P197

3 現行と次期の比較（新旧対照）

6項目

黄色のマーカー＝次期で新しく入る・強く打ち出される言葉　~~取り消し線~~＝現行から消える・言い方が変わる言葉

項目	現行	次期（審議まとめの方向）
目標で示す資質・能力	「課題を解決するために必要な資質・能力」	「数理的・科学的に探究する資質・能力」（課題解決型以外の探究もあるため） P197
目標で扱う対象	「様々な事象」	「事象や社会の課題」 P197
見方・考え方	数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせる。	対象を「事象や社会の課題、言説」とし、「数理的・科学的」な視点から捉え、批判的思考の重要性をふまえて考察する。 P197
学びに向かう力（情意・感性）	粘り強く考え行動する態度や倫理的な態度などを規定。	倫理的な態度・粘り強く探究する態度は引き続き示しつつ、知的好奇心や問題意識、他者と対話・協働して学びを調整する態度を加える。情意・感性は「数理的・科学的な美しさや不思議さを感じる感性」などで整理。 P197
探究の対象とする事象の例示	社会的事象や学際的領域も想定されているが、学校現場では選ばれにくいとの指摘がある。	科学的・数学的なものに偏らず、文理横断・文理融合（STEAM）の課題も充実させることが望ましいとされた。数学的事象の例示への追加も検討すべきとされた。 P195 P197
指導する教師	指導の担当を数学や理科の教師以外にも広げるべきとの指摘がある（課題として記述）。	数学・理科担当に限らない全校での指導体制の構築が望ましいとされた。国が仕掛けづくりの好事例を周知し、数学・理科の探究的な学びとの関係を示す必要があるとされた。 P195 P196 P198

4 授業時数

本文の理数の節には単位数の変更は書かれていない。総論の高校単位数表では、理数探究基礎は現行1単位→2新単位、理数探究は現行2～5単位→4～10新単位（1新単位＝17コマとする単位の細分化に伴う表記）。総論では外国語・国語・数学以外の科目は「科目名・単位数ともに現行と同様」とされている（P80、P82）。

5 今からできる準備チェックリスト

8項目

- [ ] 今すぐ 探究テーマの例を見直し、科学・数学の題材だけでなく、社会の課題や身近な言説を数理的・科学的に扱う文理横断（STEAM）のテーマ例を加えます。 P196 P197

- [ ] 今すぐ 数学・理科以外の先生が関われる仕掛け（テーマ相談会、得意分野別の相談役の一覧、問いの壁打ち会など）を1つ作り、年間計画に入れます。P196 P198
- [ ] 今すぐ 生徒の「問い」を磨くための校内資料（よい問いの条件、問いが変わっていった例）を作ります。国が示す参考資料やSSHの事例が出たら取り入れます。P196 P198
- [ ] 告示まで 探究の過程をポートフォリオで残す方法（問いの変化、計画、データ、振り返り）を決め、評価にどう使うかを担当者間でそろえます。P198
- [ ] 告示まで 探究の中でAIを含むICTを使う場面（モデル化・シミュレーション、データの処理など）と、豊かな学びにつながらない使い方の例を校内で集め、国の解説が出たら照らし合わせて見直します。P196 P198
- [ ] 告示まで 理科の「科学ガイダンス」で扱う予定の内容（科学とは何か、検証の方法、研究倫理）と理数探究基礎の内容の重なりを確かめ、どちらで何を扱うかを理科の先生と話し合います。P197
- [ ] 先行実施まで 探究の時間を確保するため、理数探究基礎・理数探究の履修で総合的な探究の時間を代替する仕組みや、単位を細かく分けて増減する仕組みを使った教育課程の案を検討します。P196 P198
- [ ] 全面実施まで 大学・地域の機関・卒業生などの連携先を一覧にし、学校としての連絡窓口を一本化しておきます。P198

6 次期を先取りする授業アイデア

2本

高1（理数探究基礎） 1単位時間（50分）

「〇〇すると成績が上がる」を問いに変える

よく聞く主張を、測れる・比べられる・確かめられる探究の問いに磨き上げます。

手順・ワークシート

ねらい

社会でよく見聞きする主張を、測る量・比べる対象・データの集め方がはっきりした問いに言い換え、相関と因果のちがいに注意して、探究の問いとして成り立つかを判断できる。

流れ

- 5分 主張カードを1枚見せ、「この主張、本当？」と問います。「本当かどうかを、どうやって確かめる？」と続け、本時のめあてを示します。
- 10分 先生が1つ目の主張で、3つのふるいを通すやり方を実演します。「朝ごはん」を「週に何日食べるか」、「成績」を「どの試験の何点か」に決め、生活リズムなどほかの要因が両方に影響している可能性にも触れて、「一緒に増える（相関）」と「原因になる（因果）」は別であることを確かめます。
- 15分 班で主張カードを1枚選び、ワークシートに沿ってふるいを通し、探究の問いをつくります。社会の話題を選んだ班にも、数や量で確かめる方法を考えさせます。
- 10分 2つの班で問いを交換し、「ほかの要因はないか」「データの集め方に偏りはないか」「アンケートに答える人への配慮はできているか」を質問し合います。
- 7分 受けた質問をもとに自分たちの問いを直し、直した理由をワークシートに書きます。
- 3分 振り返りとして、「主張」と「探究の問い」のちがいを自分の言葉で書きます。

評価

【思考・判断・表現】主張を、測る量・比べる対象・データの集め方がはっきりした問いに言い換えているか、相関と因果を区別してほかの要因に目を向けているかを、ワークシートで見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】ほかの班からの質問を受けて、問いを見直そうとしているかを見ます。問いが変わっていく過程はワークシートごとポートフォリオに残し、探究全体の評価に使います。

高2（理数探究）　1単位時間（50分）

複数教科の先生と「問いの壁打ち」会

数学・理科以外の先生にも計画を見てもらい、文理横断の視点で探究を深めます。

手順・ワークシート

ねらい

自分たちの探究の問いと計画を、専門の異なる先生に分かりやすく説明し、受けた質問や助言をもとに、数理的・科学的な方法で確かめられる計画へと見直すことができる。

流れ

5分 本時の流れを確かめ、来てくれた先生を紹介します。生徒には「専門外の人に伝わる説明」を目指すこと、先生には答えを教えるのではなく質問で深めてもらうことを伝えます。

24分 ローテーションで壁打ちを行います。各班が1人の先生に3分で計画を説明し、5分で質問と助言を受けます。これを3回繰り返します（先生が席を移動します）。先生の人数が班の数より少ないときは、待機班を設けて回ごとに交代し、待機中は受けた助言の整理や説明の練習をします（その場合、各班が助言を受ける回数は2回程度になります）。生徒は記録シートに質問と助言を書き取ります。

10分 班で記録シートを見ながら、「何度も聞かれたこと」「自分たちが見落としていた視点」を整理し、計画のどこを直すかを決めます。

8分 探究計画1枚シートを書き直し、直した点とその理由を赤で書き込みます。

3分 振り返りとして、「理数以外の視点が、自分たちの探究にどう役立ったか」を書きます。

評価

【思考・判断・表現】受けた質問や助言を、問い・仮説・データの集め方・分析の方法のどこにどう反映させたかを説明しているかを、書き直したシートの赤字で見取ります。【主体的に学習に取り組む態度】他者との対話を通して、自分たちの探究を調整しようとしているかを見ます。記録シートと書き直したシートはポートフォリオに残し、探究の過程の評価に使います。

7 現行の学習指導要領・解説（高校）

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）（本文）**
https://www.mext.go.jp/content/20230120-mxt_kyoiku02-100002604_03.pdf

PDF **高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 理数編**
https://www.mext.go.jp/content/1407073_12_1_1_2.pdf

PDF **（付録1）理数探究の事例イメージ**
https://www.mext.go.jp/content/1407196_31_1.pdf

文部科学省の公式PDFです（クリックで開けます）。

ご利用について

- **研修・会議・授業・保護者会での印刷・コピー・配布・投影はご自由にどうぞ。ご連絡は不要です。**
  （校内研修・教育委員会の研修・教員養成の授業・学年会・PTAなど）
- クレジット「原田英語.com 次期学習指導要領ナビ」
  （https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/）はそのまま残してください。
  各ページの下に入っています。
- 中身は中央教育審議会 教育課程部会「次期学習指導要領等に向けた審議まとめ」（2026年10月5日）ほか文部科学省の資料をもとに、原田英語.comが要約したものです。**告示前の方向性**で、答申・告示で変わることがあります。（仮称）の名前も今後変わる可能性があります。
- 文中の P○ は審議まとめ本体（PDF）のページ、**資料編（1）～（3）P○** は第3部 資料編（PDF）のページです（PDFのページ番号。印刷されたページ番号とは1つずれることがあります）。PDFで見ているときはクリックで原文が開きます。
- 授業アイデア・指導案は、審議まとめの方向性をふまえた原田英語.comのオリジナルの試案です。
- 最新の情報・ほかのPDFはサイトで：
  https://www.haradaeigo.com/jikigakushushido/download/（2026年11月4日 版）

サイトで最新版を見る